



2023年4月22日 榎野川河口干潟再生活動 集合写真

お知らせ

4年ぶりに榎野川河口干潟再生活動を開催!

2020年からの新型コロナウイルス感染症拡大を受け、中止を余儀なくされていた榎野川河口干潟再生活動が、2023年4月22日(土)、4年ぶりに開催されました。久しぶりの開催にもかかわらず、169人も参加が集まり、協力しながらアサリ保全活動などに取り組みました。参加者から、「久しぶりに干潟に来ることができて楽しかった。」との感想もありました。

開催日:2023年4月22日(土)

参加者:169名

主催:榎野川流域連携促進協議会、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所

協力:あいおいニッセイ同和損害保険(株)山口支店、(株)伊藤園山口支店、

積水ハウス(株)山口工場、水産大学校、山口大学、

榎野川河口域・干潟自然再生協議会

備考:ふしの干潟いきもの募金支援対象事業

榎野川流域の恵みの試食会も実施



被覆網の撤去・交換、アサリ調査

コロナ禍の3年間で管理が行き届かず破損や土砂埋没が目立ったことから、被覆網の撤去・交換などを実施しました。網を撤去した後は、アサリの大きさや重さを調査しました。



網袋によるアサリ稚貝育成

新たな取組として、アサリ稚貝育成のための網袋の設置を行いました。(125袋設置)

アサリ保全活動の効率化を目指し、従来の被覆網による保護に加え、稚貝の段階のアサリを土ごと網袋に封入し、干潟に設置することで、網袋で保護しながら稚貝を育てるものです。



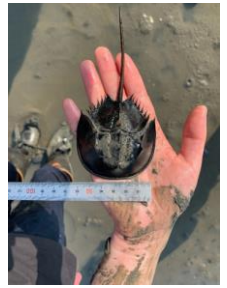
環境省:ブルーカーボン機能把握調査の対象海域に選定

昨今の国内外における藻場等のブルーカーボン機能への期待も踏まえ、環境省による、藻場・干潟の保全やブルーカーボンの温室効果ガスインベントリ算定への貢献を目的とした調査・検討が行われることとなり、その調査海域の一つとして、榎野川河口域が選定されました。

これまでの保全活動の実績やブルーカーボンWGを立ち上げたことなどが選定理由になったと考えられます。2023年度は調査の計画作成が行われ、2024年度に実際に調査が行われる予定です。

カブトガニ幼生生息調査・生物観察会

山口湾は「生きている化石」カブトガニが生息する貴重な地域です。山口カブトガニ研究懇話会の原田代表がグループリーダーを務める、協議会カブトガニWGでは、山口大学やボランティアの協力を受け、干潟の幼生生息調査を行っています。今年度は、3年ぶりに一般ボランティアの協力を募り、2年間規模を縮小して調査を行ってきた長浜では、従来の調査範囲で調査を実施することができました。調査では、干潟を約1km歩きながら、カブトガニの個体数、大きさ、発見地点を記録します。非常に暑く、足が埋まって歩きにくい中、調査に御協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。



● 長浜

開催日: 2023年8月19日(土)
 参加者: 【幼生生息調査】60名
 【生物観察会】55名
 主催: 榎野川河口域・干潟自然再生協議会
 協賛: あいおいニッセイ同和損害保険(株)山口支店
 (株)伊藤園山口支店
 備考: ふしの干潟いきもの募金支援対象事業



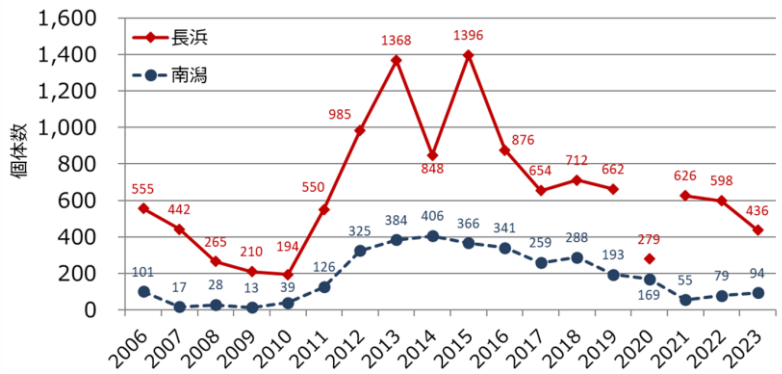
● 南潟

開催日: 2023年9月15日(金)
 参加者: 10名

長浜では、生き物観察会も実施



長浜・南潟のカブトガニ調査結果 <発見個体数>



※南潟: 2018年のみライン6 (300m) を実施
 2020年の長浜は、雷雨中断により欠測

クロツラヘラサギを守るための海岸清掃

絶滅危惧種であるクロツラヘラサギの飛来地である山口湾のうち、周防大橋西側から唐樋漁港前までを、70名の参加者で清掃しました。可燃ごみ190kg、不燃ごみ110kgの合計300kgを回収しました。プラスチックごみや漁具のほか、布団やブロックといった大型のごみも回収しました。

開催日: 2023年11月11日(土)
 参加者: 70名
 主催: NPO法人野鳥やまぐち、榎野川河口域・干潟自然再生協議会
 協力: あいおいニッセイ同和損害保険(株)山口支店、(株)伊藤園山口支店、
 新光産業(株)、積水ハウス(株)山口工場
 備考: (一財)山口県環境保全事業団助成事業



合計300kgのごみを回収!



椹野川河口干潟再生活動2023 秋

春の椹野川河口干潟再生活動で設置した網袋の開封・稚貝放流と協議会ブルーカーボンWGによるアマモの埋設（試験）を実施しました。湿重量18.64kg、推計約12,000個のアサリを被覆網の下に放流しました。アマモ埋設後は、干潟の変化など分析が進められています。

開催日：2023年9月16日（土）

参加者：27名

主催：椹野川河口域・干潟自然再生協議会

協力：積水ハウス(株)山口工場、山口大学、ふしの干潟ファンクラブ

備考：(一財)山口県環境保全事業団助成事業



環境学習活動

小学校の総合的な学習のとの連携

今年も協議会の委員である、山口カブトガニ研究懇話会の原田代表と、水産大学の南條先生と学生の協力を得て、山口市立二島小学校5年生の総合的な学習の時間と連携しました。7月にカブトガニ観察会、10月に干潟の生き物観察会を実施しました。小学校で行われた総合学習発表会では、干潟や干潟に生息する生き物について、発表してくれました。生き生きとした表情で生き物と触れ合う子どもたちの姿が印象的でした。



野鳥の教室

協議会の委員である、山口市環境政策課とNPO法人野鳥やまぐちが、11月と3月に野鳥の教室を開催しました。

さらに浜自然観察公園のレンジャーの解説を聞きながら、カモの見分け方などを中心とした野鳥観察や羽ペンを使ったポストカード描画、干潟ゾーンの見学などを実施しました。



自然再生協議会会議

2023年4月に第34回会議（対面）、2024年2月に第35回会議（ハイブリッド方式）を開催しました。第34回会議では、2022年度ふしの干潟いきもの募金の実績報告及び2023年度のふしの干潟いきもの募金の支援対象活動の方針案等について協議したほか、午後からの干潟再生活動の説明などを行いました。第35回会議では、2023年度の協議会の活動概要の報告のほか、協議会委員から、調査研究や実績報告等の発表をいただきました。意見交換や提案など活発な議論の場となりました。

<第35回会議 次第抜粋>

- ・2023年度活動概要の報告（事務局）
- ・令和5年度ブルーカーボンWGの取り組み報告（山口大学 山本委員）
- ・山口県を含む広島湾の干潟におけるアサリ採集状況2023 - 市民の協力による動向調査の紹介（附：小瀬川河口における長期動向（2007-2023年）の概要）（重田委員）
- ・網袋方式を用いた南潟のアサリの保護・育成の実績について（環境保健センター）



活動への支援ありがとうございます

今年度も多くの方から、心のこもったご寄附をいただき、感謝申し上げます。「ふしの干潟いきもの募金」として運用し、保全活動や調査、環境学習などに活用させていただいております。

また、企業様・ふしの干潟ファンクラブ・一般のボランティアの皆様など、多くの方々に活動にご参加いただいております。重ねて感謝申し上げます。

ご寄附をいただいた団体

あいおいニッセイ同和損害保険(株)山口支店
椹野川漁業協同組合
山口県職員会館（県庁売店） 他

※五十音順・敬称略



あいおいニッセイ同和損害保険(株)様



椹野川漁業協同組合様

